

## 「浅間山再び小噴火」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今日は板橋区立第五中学校の校内研究会にお邪魔した。礼儀正しく、探究心旺盛な中学3年生の授業を参観させてもらった。授業者の先生はもちろん、他の先生方も大変研究熱心で、授業後の協議会でも活発に意見が交換されていた。水溶液の中和を、イオンの考える授業だったが、私自身が大変勉強になった。

その協議会が終了したあと、浅間山が再び小噴火を起こしたというニュースが飛び込んできた。私は十条駅から大宮駅に出て北陸新幹線に乗り、軽井沢駅から浅間火口から4kmの地点まで直行した。火山灰を採取する為である。

今夜の浅間北麓は雨。地元の人の話では、6月16日の噴火後、豪雨に近い雨があり、その時の火山灰は完全に流れ去ったという。今回、もし火山灰が見つければ、今日(6月19日17時2分)の噴火によって噴出した火山灰と確定できる。

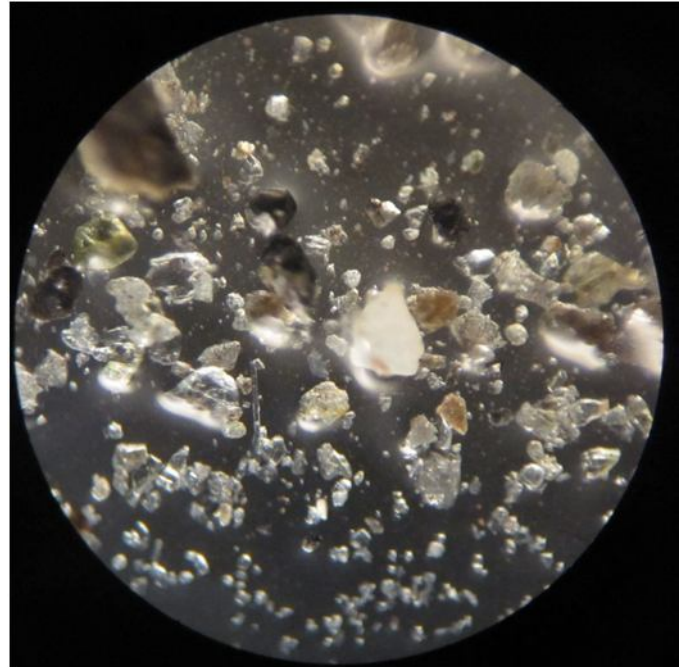
自動車で行ける場所では、最も山頂に近づける場所に着いた。今回の噴火も規模は小さく、火山灰の量も僅少である。地面からの採取は不可能である。陸橋の欄干をさわってみると、ざらついている。しかし、雨にぬれていて、思うように容器に採取できない。



仕方がないので、軍手で陸橋の欄干をぬぐうことにした。これで軍手に火山灰が付着するはずである。欄干は常時風雨にさらされているので、そのほこりもこびりついている。できるだけ表面のザラザラだけをぬぐうようにした。

軍手は密封して山荘に持ち帰り、容器の中で水洗いをした。軍手は新品なので、そこから落ちる砂粒は、

今回陸橋の欄干から採取したものである。容器の底には、確かに砂粒が見えたので、顕微鏡で観察してみた。



「2015, -6, 19 17:02 噴火の浅間山火山灰」 気象庁の調査は入っておらず、明日の朝までに、雨で火山灰は流出すると思われる。恐らくこれが唯一の写真。

明らかに火山灰である。それも、摩耗の少ない、非常に新鮮な鉱物結晶が多い。今回の小噴火も、新しいマグマ由来の火山灰を降らせた可能性が高いとわかった。



今夜(6月19日)も火映現象が観測されている。写真は友人が設置したカメラの、6月19日の火映画像である。浅間山の火山活動は、当分は目が離せない。